

大津市歴史博物館 活動報告
令和3年度

大津市歴史博物館

令和3年度 大津市歴史博物館事業報告

当館では、運営の指針として「大津市歴史博物館の基本的運営方針」を定めています。本書は、そこに示された運営方針や活動目標の成果をご確認いただくものとして、令和3年度の事業報告について、まとめたものです。博物館の活動状況を皆様方に広く知っていただければ幸いです。

令和4年4月 大津市歴史博物館

◇大津市歴史博物館の基本的運営方針

〔基本的運営方針1〕 地域に埋もれた歴史と文化をともに調べ、ともに守る

-
- ・活動目標(1) 資料の調査収集・研究活動の推進
 - ・活動目標(2) 調査情報のデータ化と収蔵資料の充実
 - ・活動目標(3) 地域資料の保存、活用に向けた情報の共有化と学習支援の推進

【1-1-1】 資料調査の実施状況	…	1
【1-1-2】 博物館資料の収蔵状況（収集資料件数・新収蔵資料）	…	2
【1-1-3】 銅造勢至菩薩立像の調査	…	7
【1-1-4】 大津市歴史博物館調査報告書の発行	…	9

〔基本的運営方針2〕 あらゆる世代・地域に対し、歴史情報の共有化に向けた情報発信を行う

-
- ・活動目標(1) 常設展示の充実
 - ・活動目標(2) 企画展示の充実
 - ・活動目標(3) 子ども・若者に対する学習支援の推進
 - ・活動目標(4) 幅広い世代に向けた積極的な情報発信

【1-2-1】 常設展示観覧者数	…	10
【1-2-2】 企画展「芭蕉翁絵詞伝と義仲寺」の結果	…	11
【1-2-3】 ロビー展「TOKYO1964 - 大津に聖火がやってきた」の結果	…	13
【1-2-4】 企画展「大津のどうぶつ博物館」の結果	…	14
【1-2-5】 企画展「西教寺 - 大津の天台真盛宗の至宝 -」の結果	…	16
【1-2-6】 れきはく講座の実施状況	…	19
【1-2-7】 子ども向けイベントの結果	…	21
【1-2-8】 市内小中学校等による博物館利用状況	…	25
【1-2-9】 広報・情報発信の状況	…	26

〔基本的運営方針3〕 大津市の歴史と文化の普及に携わるさまざまな組織の活動と連携し、支援体制を築き、歴史情報のセンターとしての役割を担う

-
- ・活動目標(1) 大津市各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携
 - ・活動目標(2) 歴史と文化情報のセンターとしての役割を担う

【1-3-1】 講師・調査派遣等の状況	…	27
【1-3-2】 収蔵資料の貸出し状況・特別利用の状況	…	28
【1-3-3】 貸しギャラリーの利用状況	…	30

〔参考1〕 大津市歴史博物館の概要について

〔参考2〕 大津市歴史博物館の基本的運営方針と活動目標について

【1-1-1】資料調査の実施状況（令和3年度）

本館では、継続的な資料調査の他に、他機関・専門家等との合同による資料調査を行っている（継続も含む）。

（1）科学研究費補助事業、大学・研究機関への協力・共同調査

- ・基盤研究A「3次元データに基づく人工知能による仏顔の様式研究」（課題番号18H03571 代表者 藤岡穰〔大阪大学〕平成30年～令和4年度）
上記科研の研究協力者として、大津市内に所在する聖衆来迎寺などの寺院に伝来する仏像の調査研究を実施。
- ・基盤研究B「真義真言宗系聖教の形成と教学的交流に関する基礎的研究」（課題番号17H02342 代表者 宇都宮啓吾〔大阪大谷大学〕平成29年～令和3年度）
- ・基盤研究B「越境する教義問答－東アジア仏教における国際的な相互交流－」（課題番号20H01186：代表者大谷由香〔龍谷大学>令和2年～7年〕）
上記科研の研究協力者として、大津市内に所在する聖衆来迎寺や法明院、西教寺に伝来する聖教の調査研究を実施。
- ・若手研究「船道郷土文書を基軸とした近江国堅田地域史料の再構築と通時代的研究」（課題番号20K13188：代表者 高橋大樹〔佛教大学〕令和2年～令和4年）
館蔵居初家文書をはじめ、堅田に関わる文書・記録の悉皆調査を実施。
- ・大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所プロジェクト「人口減少時代における気候変動適応としての生態系を活用した防災減災（Eco-DRR）の評価と社会実装」（代表者：吉田丈人）
洪水・土砂災害・高潮などの自然災害への生態系がもつ多様な機能を活用する防災減災の手法（Eco-DRR）による調査・研究。比良山麓地域（八屋戸・南小松）の地域史料と調査・整理の実施。
- ・東京大学史料編纂所一般共同研究「聖衆来迎寺史料の調査・研究」（令和2年度）
聖衆来迎寺伝来の文書・聖教類の総合調査を実施（コロナ対策により令和3年度も延長実施）。

（2）その他の調査

- ・歴史博物館れきはく講座受講者で、古文書読解を目的とする有志で結成された研究会と、館蔵文書・関係文書の整理・解読を進めている。（平成25年～）

【1-1-2】博物館資料の収蔵状況

◇収集資料件数

	購 入	受 贈	受 託	合 計
絵 画	153件 (+4件)	71件 (+1)	221件 (-16件)	445件 (-11件)
彫 刻	1件	1件	30件	32件
工 芸	40件	38件 (+1)	45件	123件 (15件)
書 跡	28件	21件	41件	90件 (+1件)
古 文 書	23件 (+2件)	27件	65件 (-1件)	115件 (+1件)
考 古	0件	5件	12件	17件
歴 史	36件 (+2件)	213件 (+3件)	83件 (-6件)	332件 (-1件)
民 俗	0件	22件	9件	31件
合 計	281件 (+8件)	398件 (+5件)	529件	1,185件 (-10件)

(令和4年2月末現在) (※減少は寄託品の返却、寄託品の受贈等による)

◇新収蔵資料 (令和3年度第1回収集資料)

令和3年7月28日答申

購入資料

	種別	名称	頁数
1	絵画	大津絵 鬼念仏	1枚
2	絵画	早苗会寄合六種大津絵図	1幅
3	絵画	阪本三橋之秋色 柴田晩葉筆	1幅
4	絵画	紅葉狩図 渡辺公観筆	1幅
5	古文書	近江国堅田船道郷士竹内家文書(2)	1巻(15通)
6	古文書	本多康慶家中定書	1巻
7	歴史資料	大津県高札	1点
8	歴史資料	狂歌画本 大津ミやげ	1巻

受贈資料

	種別	名称	員数
1	絵画	小林翠溪絵画資料	2幅・1巻
2	工芸	大津絵人形	6点
3	歴史資料	下百石町屋敷割図	1鋪
4	歴史資料	青木平輔短歌（大津事件関係）	1点
5	歴史資料	大津少年飛行兵学校卒業証書・勅諭	2点

<購入>

購入1 絵画 大津絵 鬼念仏 江戸時代 1枚

半紙一枚版サイズの大津絵鬼念仏。18世紀における半紙2枚継ぎの作例と比較して、図像の描写がだいぶ奔放になってきていることから制作時期は19世紀前半と推定される。街道名物としての大津絵の販売が低調になってきた時期のコストダウンを反映した作例である。

購入2 絵画 早苗会寄合六種大津絵図 昭和時代（戦前） 1幅

山元春拳画塾「早苗会」役員6名による寄合描き作品。会主催の画塾展の打ち上げ（蘆花浅水荘または大津の料亭で開催）の記念として描かれたものか。各画題の担当は、雷公：川村曼舟、鬼念仏：小村大雲、矢の根：三宅鳳白、藤娘：勝田哲、鷹匠：案本一洋、瓢箪鯨：庄田鶴友。

購入3 絵画 阪本三橋之秋色 柴田晩葉筆 大正時代 1幅

大津町新町出身で山元春拳門人の柴田晩葉（しばたばんよう、1885～1944）の作品。錦秋が見頃を迎えた頃の日吉大社境内を描いている。大宮川が流れ、リズムカルな配置で日吉三橋を俯瞰する構図で描いており、図案的な作風が得意な柴田晩葉の力量が発揮されている。

購入4 絵画 紅葉狩図 渡辺公観筆 大正時代 1幅

神職が、紅葉の落ち葉で焚火をして、熱燗をしている。盃に舌鼓を打ちながら歓談と観楓を楽しんでいる。作者が大津の渡辺公観（1878～1938）である点と、神職と紅葉の場面を合わせて考えると、この場所は日吉大社の境内であろう。

購入5 古文書 近江国堅田船道郷士竹内家文書（2） 江戸時代 1巻（15通）

江戸時代、琵琶湖水運を担った堅田の船道郷士（四家）のうち、本堅田村居住の竹内茂左衛門家に伝来した15通の古文書。堅田藩主3代当主となる正永が竹内家に預けられて養育されており、その誕生や育成、また疱瘡に罹った際の看病に対する竹内家への藩主正高礼状など、堀田家と竹内家の交流を知る上で貴重な文書群。

購入6 古文書 本多康慶家中定書 江戸時代 1通

10代目膳所藩主本多康慶が家中に出した定書。全16箇条からなる。内容は、交際や縁組、前年に隠居した9代目藩主本多康将に関する事など多岐にわたる。膳所藩主が家中に充てて出した定書はあまり類例がなく、藩主がどのように家中を統制したかがうかがえる好資料である。

購入7 歴史資料 大津県高札 明治時代 1点

大津浦（大津宿）から矢橋・山田（現草津市）までの渡銭として、①本馬軽尻・乗合などの陸

路、②小丸船・中船など琵琶湖水運の賃金を定めたもの。本高札は、明治2年(1869)年に比定されるもので、高札裏面には「小船入」との墨書があり、江戸時代において矢橋への人員・物資輸送の重要なルートである大津小船入に掲げられていた可能性が高い。江戸時代・明治時代の街道文化を知る重要資料。

購入8 歴史資料 狂歌画本 大津ミやげ 大正時代 1冊

江戸時代に版行された2例の大津絵の画題集のうちの一つ(もう一つは宝永6年序の『大津追和気』)。本資料は、大津絵師、土佐権次が安永9年(1780)に描いた36種の大津絵画題について、各々、大坂の数寄者たちが狂歌を寄せた絵入り狂歌本である。

<受 贈>

受贈1 絵画 小林翠溪絵画資料 大正時代 2幅・1巻

山元春挙の弟子で中庄に住んだ小林翠溪(1902~55)が描いた、琵琶湖の風景画の掛軸と故郷舞鶴湾付近の写生画卷、および花火線香図の掛軸の3点。寄贈者は翠溪の孫であり、本資料は小林家に遺された作品である。翠溪が得意とした写生的な風景描写をうかがい知ることができる。

受贈2 工芸 大津絵人形 昭和時代(戦前) 6点

作者は、岸本房之助で、昭和30年代から製造が始まった土産物。市内の土産物店の店頭と並んでいたもので、昭和40年頃には、店頭から姿を消した。

受贈3 歴史資料 下百石町屋敷割図 江戸時代 1鋪

文久3年(1863)3月、大津代官の命により作成された絵図。将軍徳川家茂の上洛に際し、一行を町家に分宿させるため各町各戸の坪数や畳数を調べた絵図で、幕末の下百石町の様子を知るだけでなく、当時の世情や政治動向と関わりながら作成された点を考えても興味深い資料。

受贈4 歴史資料 青木平補短歌(大津事件関係) 明治時代 1点

彦根藩士の青木平補(文政3年[1820]~明治30年[1897])による短歌短冊。明治24年(1891)に発生した大津事件について、「狂ひての しわざとはいへ など露の たまにこてふのはねをふれけむ」と、なぜ露の玉(=ロシア皇太子ニコライ)に小蝶の羽(刃)が触れてしまったのだろうか、と詠んだもの。同事件をめぐる真相や動機が不明である、当時の様子を吐露したものとして貴重なものといえる。

受贈5 歴史資料 少年飛行兵学校卒業証書・勅諭 昭和時代(戦前) 2点

昭和18年、陸軍航空学校大津教育隊から独立して大津陸軍少年飛行兵学校が開校。本資料は、昭和20年第18期生の卒業証書。同校での1年間の教育機関ののち、本来なら操縦(宇都宮・熊谷)・通信(水戸)・整備(所沢)の各上級学校に進むことになっていたが、18期生は基礎教育を受けた後も大津にとどまって訓練を続け、終戦を迎えた。資料は、卒業証書と授業で写したと思われる自筆の軍人勅諭。

〈購入〉



購入1 絵画
大津絵 鬼念仏
江戸時代 1枚



購入2 絵画
早苗会寄合六種大津絵図
昭和時代(戦前) 1幅



購入3 絵画
阪本三橋之秋色 柴田晩葉筆
大正時代 1幅



購入4 絵画
紅葉狩図 渡辺公観筆
大正時代 1幅



購入5 古文書
近江国堅田船道郷士竹内家文書
(2)
江戸時代 1巻(15通)



購入6 古文書
本多康慶家中定書
江戸時代 1通



購入7 歴史資料
大津県高札
明治時代 1点



購入8 歴史資料
狂歌画本 大津ミヤげ
大正時代 1冊

〈受 贈〉



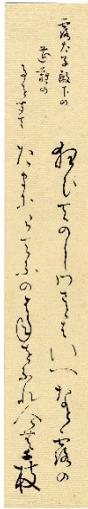
受贈1 絵画
小林翠溪絵画資料
大正時代 2幅・1巻



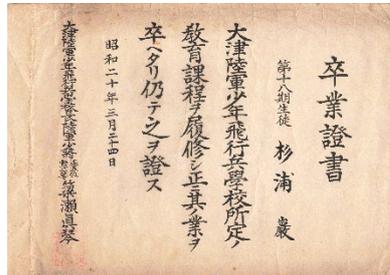
受贈2 工芸
大津絵人形
昭和時代（戦前） 6点



受贈3 歴史資料
下百石町屋敷割図
江戸時代 1鋪



受贈4 歴史資料
青木平補短歌（大津事件関係）
明治時代 1点



受贈5 歴史資料
少年飛行兵学校卒業証書・勅諭
昭和時代（戦前） 2点

【1-1-3】銅造勢至菩薩立像の調査

東京都・個人蔵の銅造勢至菩薩立像について調査を行い、大津市下阪本四丁目の眞光寺（天台宗）が所蔵する銅造観音菩薩立像（奈良時代 重要文化財 本館寄託中）と、本来一具（「阿弥陀如来及び両脇侍像 3軀」のうちの、観音菩薩と勢至菩薩の「両脇侍像」）であった可能性が高いことが判明した。そこで両像を歴史博物館で並べて展示公開した。



勢至菩薩立像 奈良時代
個人蔵



観音菩薩立像 奈良時代
大津市下阪本・眞光寺蔵

【法量】

	像高	髮際高	頂一顎	面長	面幅	耳張	面奥
①眞光寺 観音菩薩	27.2	23.7	7.0	3.1	2.7	4.0	3.8
②個人蔵 勢至菩薩	26.8	23.3	7.1	3.2	2.8	4.1	3.9
	胸奥左	胸奥右	腹奥	肘張	裾張	足先開外	足先開内
①眞光寺 観音菩薩	2.9	2.9	3.3	7.8	6.0	5.8	2.7
②個人蔵 勢至菩薩	3.1	3.2	3.3	8.0	5.8	5.9	2.9

【蛍光エックス線データ表】

		Cu 銅	Sn 錫	As ヒ素	Fe 鉄	Pb 鉛	Au 金
① 観音菩薩	本体	95.7	1.7	1.0	1.0	0.3	0.0
② 勢至菩薩	本体	96.0	2.3	1.2	0.3	0.2	0.0

① 観音菩薩	嵌金	99.1	0.0	0.1	0.6	0.1	0.0
② 勢至菩薩	嵌金	99.4	0.0	0.3	0.1	0.05	0.0

勢至菩薩立像は、勢至菩薩としては単体で造られることがほとんどないことや、仕草と腰をひねる姿勢から、阿弥陀三尊の脇侍と考えられる。体躯のバランスや胸を後方に引く姿勢、裾の正面のあわせ方、作者の個性が出るとされる耳の形など、造形的に真光寺像と酷似。さらに法量や材料の成分、構造も同じであり、ともに8世紀始め頃に阿弥陀三尊の一具像として、造立された可能性が高いと考えられる。

※調査は、大阪大学大学院文学研究科日本・東洋美術史学専攻の藤岡穰教授研究室の協力で、歴博内で行った。

【1-1-4】大津市歴史博物館調査報告書の発行

本館では、館蔵資料・市内文化財の調査について、その成果をまとめた報告書の発行を令和3年度から行います。当年度については、市民（大津古文書輪読会・大津古文書研究会の2グループ）との共同で、古文書を解読した史料集（2冊）を発行します。

令和元年10月に策定された「大津市歴史文化基本構想」では、文化財の保存・活用のための仕組みづくりとして、調査研究体制の整備や市民の興味関心を高める機会の提供が方針として掲げられています。本事業は市民参加による調査・研究の取り組みに資するものと考え、その成果物の発行は、市民参加による研究活動の成果であるとともに、大津の歴史研究の基礎資料として活用できます。なお、本報告書は、少数数の印刷物を県内図書館・研究機関等に配布し、史料集全文を本館ホームページで公開します。

[令和3年度発行]

(1) 『大津市歴史博物館調査報告書1 大津百艘船万留帳1』

重要文化財「大津百艘船関係資料」のうち「万留帳」の延宝9年(1681)～寛政8年(1796)のうち7冊分の史料集120頁

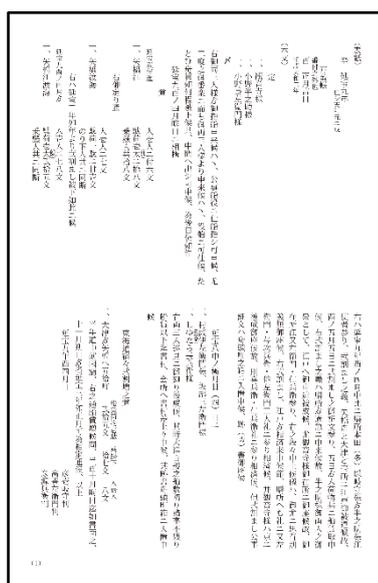
江戸時代に琵琶湖水運の中心的役割を担った大津百艘船が書き継いだ留帳で、大津町の様子や琵琶湖水運の実態に迫る記録です。

(2) 『大津市歴史博物館調査報告書2 膳所藩町奉行川那辺壮右衛門日記』

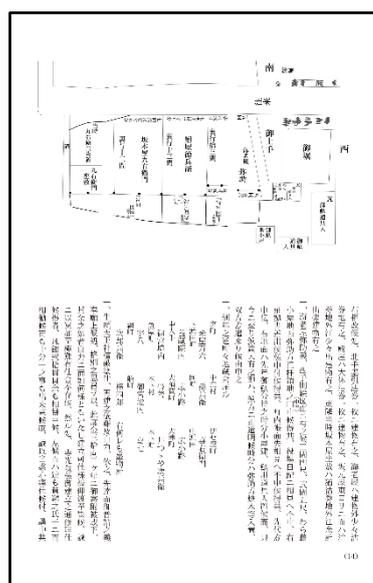
嘉永2年～同3年(1849～50)の全4冊(完結)の史料集125頁

膳所城下町を管理し、市政を統制した膳所藩町奉行を勤めた川那辺壮右衛門の日記で、行政支配だけでなく、当時の城下町の生活の様子が読み取れます。

※次年度以降、報告書3「大津百艘船万留帳2」、報告書4「膳所藩士羽太家日記」を継続発行していく予定です。



大津百艘船万留帳



川那辺壮右衛門日記

【1-2-1】 常設展示観覧者数（令和3年4月～令和4年2月）

（単位：人）

	個人				団体				市内障がい者等	歴博カード会員	減免・招待	計	前年
	一般	市内65歳以上	高大	小中	一般	市内65歳以上	高大	小中					同月
4月	564	199	14	29	193	62	0	1	36	86	180	1,364	479
5月	484	97	36	28	214	34	3	1	39	112	680	1,728	0
6月	650	153	104	31	309	62	4	0	32	77	99	1,521	1,171
7月	457	56	27	118	184	40	31	20	36	98	215	1,282	900
8月	428	8	54	257	236	46	34	86	56	126	640	1,971	1,422
9月	191	25	23	20	68	9	19	0	14	39	12	420	1,121
10月	680	6	86	18	382	130	44	175	24	247	380	2,172	6,023
11月	672	7	61	40	574	121	100	4	31	136	894	2,640	4,147
12月	185	24	26	18	138	6	0	0	19	24	30	470	863
1月	142	18	11	30	67	8	1	0	17	56	115	465	769
2月	176	24	27	31	56	8	3	0	19	69	41	454	1,120
3月	522	12	38	34	240	130	4	1	27	159	365	1,532	
計	5,151	629	507	654	2,661	656	243	288	350	1,229	3,651	16,019	18,015

対前年比 -1,996

※令和2年4月18日～5月30日は新型コロナウイルス感染防止措置として臨時休館

【参考】 常設展示観覧料

個人 一般330円 高校生・大学生240円 小学生・中学生160円

団体 一般260円 高校生・大学生190円 小学生・中学生130円

※団体は15人以上。

※大津市内在住の65歳以上の人は、小中学生料金と同額。

※大津市内在住の障がい者、介護保険の要介護者・要支援者及びその介護者1名は無料。

※歴博カード会員（一般2,000円 高大1,500円 小中1,000円）は記名本人のみ、登録から1年間有効で、常設展示ほか本館主催の企画展を何度でも観覧可能。

※ミニ企画展は、常設展示観覧料で観覧可能。

※企画展観覧券を購入した者は、同時に常設展示も観覧可能。

【1-2-2】企画展「芭蕉翁絵詞伝と義仲寺」の結果について

- 1、会 期 令和3年2月27日（土）～4月11日（日）[開館日数38日間]
- 2、会 場 大津市歴史博物館 企画展示室A
- 3、主 催 大津市、大津市教育委員会、大津市歴史博物館、京都新聞
- 4、特別協力 義仲寺
- 5、観覧料 常設展示観覧料
- 6、入場者数 3,871人（2月27日から4月11日までの常設展示来館者数）
- 7、関連イベント
 - 3月13日（土） れきはく講座「芭蕉－伊賀時代からの旅立ち」 81人（77人、関係者4人）
岡本栄（伊賀市長）
 - 3月18日（木） れきはく講座「歴史資料から読み解く義仲寺」 114人（112人、関係者2人）
高橋大樹（本館学芸員）
 - 3月20日（土・祝） 現地見学会「義仲寺と竜が丘俳人墓地」 19人（17人、関係者2人）
横谷賢一郎（本館学芸員）
 - 3月30日（火） れきはく講座「芭蕉翁絵詞伝 絵師と作品」 73人（69人、関係者4人）
福田道宏（広島女学院大学教授）
- 8、刊行物 『芭蕉翁絵詞伝と義仲寺』パンフレット（A4版16頁オールカラー） 無料配布

9、広報・報道

【新聞・雑誌掲載】

京都新聞：3月1日朝刊京滋版・滋賀版、中日新聞：3月2日朝刊滋賀版
読売新聞：2月28日朝刊滋賀版・読売新聞オンライン、3月23日大阪本社夕刊文化蘭
朝日新聞：3月3日朝刊滋賀版、毎日新聞：2月28日朝刊滋賀版、3月20日電子版
産経新聞：2月28日朝刊滋賀版

【テレビ】NHK（2月27日おうみ610、おうみ845）、びわ湖放送：2月27日ニュース、ZTV

【ネット記事】 InfoMotion-2021、47NEWS

10、展覧会の成果と問題点

【内容面】

本展は、開館30周年を記念して、全長40mの芭蕉翁絵詞伝全巻を一気に公開した。大津市の義仲寺には、俳聖の松尾芭蕉（1644-94）が眠っており、今でこそ、美しい境内が守り伝えられているが、芭蕉亡きあとの18世紀半ば頃には荒廃が進み、半ば忘れられた寺であった。それを、生涯をかけて復興に努めた蝶夢（1732-96）の、知られざる功績についてもあわせて顕彰した。彼が芭蕉の百回忌に向けて、義仲寺の翁堂（芭蕉堂）を復興し、本尊の松尾芭蕉像に奉納するため、11年の歳月をかけて本格的な松尾芭蕉の絵伝として芭蕉翁絵詞伝を制作した点にも触れた。

この芭蕉翁絵詞伝は、長く門外不出の扱いを受けており、前回の公開は、当館の芭蕉没後200年記念「松尾芭蕉と近江の門人たち」展（1994）が最後であったが、3年前、絵詞伝が本館に寄託されたことにより、公開の機会を得た。今後は、常設展示室で部分公開をしてゆく予定である。

【反省点と今後の課題】

芭蕉翁絵詞伝を紹介するだけでも、かなりの情報量があるにもかかわらず、芭蕉の旅の情報や滋賀県内の芭蕉句碑、蝶夢の伝記や功績、義仲寺の俳諧資料を一度に紹介する構成としてしまったため、消化しきれないままの展示解説や解説パネルとなってしまった。今後は、ミニ企画展などで、本展の遺漏をフォローしていきたい。

【アンケート結果】(抄) 全体回答者数 636人

- ・ 学校の歴史の授業では一言の説明だった奥の細道だが、実際に見ると、40メートルにもなる巻物で、手書きでこんなにも書いたものだと、現代の基準（ワード、エクセル）で考えておどろいた。（大阪府・40代）
- ・ 感動しました。義仲寺に多くの史料が存在するのを初めて知りました。（栗東市・70代）
- ・ おずかしいイメージのあった俳句の世界が、温か味のある絵で身近に感じる事ができました。義仲寺にもぜひ足を運んでみようと思います。（市内・40代）
- ・ 松尾芭蕉のおはかは義仲寺だけにあると思っていたけれど、全国にたくさんあると知ったので、びっくりしました。（市内・小学生）
- ・ 知っている句や地名が出てくると地元愛が出ます。昔の人のすごさ（知力・体力）に感心しました。大変よかったです。ありがとうございます。（市内・70代）
- ・ 翁堂の天井画が若冲によって描かれているとは知らなかった。そのオリジナルが見られてよかった。（市内・70代）
- ・ 絵詞伝の初公開というので来ました。保存の良さと美しさに感動しました。（市内・70代）
- ・ 大津と芭蕉が関係あり芭蕉の門弟の多さにびっくり。かなり魅力があるのだろうということがよくわかりました。（市内・40代）
- ・ 芭蕉の「おくの細道」は学校でも習うので、とても興味があったので、とても面白かったです。特に、芭蕉絵詞伝は、知らなかったなので、今回初めて見て、もっと芭蕉について知りたいと思えました。パンフレットと一緒に展示を見るのは今まであまりなかったですが、一度じっくり見てみようと思い、パンフレットと一緒に展示を見ると、より一層今までよりも展示されているものの内容や歴史背景が理解でき、楽しかったです。（市内・19歳以下）



【1-2-3】ロビー展「TOKYO 1964ー大津に聖火がやってきたー」結果

1、会期 令和3年4月20日（火）～5月30日（日）[開催日数34日間]

2、会場 大津市歴史博物館 1階エントランスロビー

3、観覧料 無料

4、展示作品 写真パネル32点・実物資料10点

5、観覧者数 1,986人（期間中の常設展示観覧者）

6、概要

- ・ 昭和39年(1964)9月29日から30日にかけて、第18回オリンピック東京大会の聖火が、滋賀県を通過した。京都からバトンタッチされた聖火は、滋賀県庁で一泊し、次の日に三重へ引き継がれた。展示では、市内のリレーの様子を写真やルート図などで解説するとともに、聖火ランナーが使用したトーチやユニフォームの実物を配置した。
- ・ 期間中には、前回東京大会で大津市内の聖火ランナーを務めた6人の方々を迎えたトークイベント（れきはく講座）を開催し、聖火リレーの様子や苦労話などをお聞きした。
- ・ ランナーのユニフォームが、市内の東レ石山工場の製造であることが判明し、展示内で紹介するとともに、メディアでも取り上げられた。

7、展示会の成果と問題点

- ・ 東京オリンピック2020の延期にともない、本展も1年延期して開催した。当初はトークイベントのみであったが、多くの写真が集まったためロビー展とし、一定期間観覧できるようにした。
- ・ 本展は、聖火ランナーの方から提案を受け、両者で話し合いながら、内容を決めていった。こうした外部からの提案いただく展示は、資料の発見や記憶の聞き取り等をスムーズに行なうことができた。
- ・ 本展を契機として、今年度中には「びわ湖毎日マラソン」の振り返り展が市スポーツ課主催により、2階展望ロビーで行なわれた。また、夏季展示会でも作品展示を行った。無料エリアであるロビーは、展示環境や防犯上の懸念から、展示できる資料が限定されるものの、今後も施設の有効活用手段として、活用に取り組みたい。



展示風景



トークイベント（ランナーは交替で登壇）

【1-2-4】企画展「大津のどうぶつ博物館」結果

- 1、会期 令和3年7月17日(土)～8月29日(日) [開館日数38日間]
- 2、会場 大津市歴史博物館 企画展示室A
- 3、主催 大津市、大津市教育委員会、大津市歴史博物館、京都新聞
- 4、後援 朝日新聞大津総局、エフエム滋賀、NHK大津放送局、共同通信社大津支局、KBS京都、産経新聞社、時事通信社大津支局、(株)ZTV 滋賀放送局、中日新聞社、BBC びわ湖放送、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局
- 5、観覧料 一般600円(480円) 高大生300円(240円) 小中生200円(160円)
- 6、展示作品 96件
- 7、入館者数 2,349人(うち有料観覧者1,491人 無料観覧者758人)
◇有料観覧者数 内訳
個人 一般:553人 高大生:53人 小中生:325人
団体割引一般:349人 高大生:33人 小中生:116人
市内(65歳以上)割引:62人
歴博カード会員:118人

8、関連講座

- | | | |
|------------|-------------------------|---------|
| 7月22日(木・祝) | トワイライトミュージアム(大人向け:1回目) | 参加者:8人 |
| 7月30日(金) | トワイライトミュージアム(子ども向け:1回目) | 参加者:23人 |
| 8月8日(日・祝) | トワイライトミュージアム(子ども向け:2回目) | 参加者:36人 |
| 8月19日(木) | トワイライトミュージアム(大人向け:2回目) | 参加者:8人 |
- [講座参加者計:75人]

- 9、刊行物 『大津のどうぶつ博物館』パンフレット(A5版縦 32頁オールカラー 無料)

10、展覧会の成果と問題点

成果

- ・大津市歴史博物館としては初めてとなる、子どもを対象とした展示内容での開催。大津の長い歴史を、身近などうぶつ達から探っていくことで勉強できる良い機会となった。
- ・各章を代表するどうぶつをモチーフにしたキャラクターをデザインし、キャラクターの対話形式にすることでキャプション等の説明文を子どもたちにわかりやすくした。
- ・子どもを対象としたことで、子どもやその親世代の来館を促し、これまでより若い人の来館が多くなった。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、博物館の閉館後に初めてギャラリートークを開催した。また、内容も大人向けと子ども向けを分けて行ったところ、大変好評を得た。

問題点

- ・子ども向けの説明に特化させたため、より詳しく知りたい人にとっては物足りない展示になっていたと思われる。
- ・本展示の内容については、小学校高学年を対象としたが、実際にはより小さな低学年や未就学児の来館も多く見られたので、今後同様の展示をする際にはそれに対応する必要がある。

11、アンケート結果(抄) 全体回答者数 324人

◎大津市歴史博物館への来館回数

- ①初めて:160人 ②2～4回:76人 ③5回以上:36人 ④10回以上:33人

◎居住地

①大津市内：199人 ②滋賀県内(大津市外)：46人 ③京都府：36人 ④その他：29人

◎年齢

①～10代：73人 ②20代：19人 ③30代：49人 ④40代：75人 ⑤50代：39人
⑥60代：38人 ⑦70代：22人 ⑧80代以上：7人

◎どなたと来られましたか。

①一人：56人 ②家族と：228人 ③友人・知人と：24人 ④団体：2人 ⑤その他：1人

◎自由記入欄より感想・意見・要望の一部を内容ごとに分類して抄録(一部中略のある他は原文のまま)

[ご意見ご要望]

- ・「どうぶつ」という切り口で化石から出土品、美術品とさまざまなジャンルのものがみれてよかったです。解説もたのしげで分かりやすく、夏休みにぴったりですね。パンフレットも充実していて嬉しいです。(京都府・20代)
- ・見所の多い企画展でした。説明がわかりやすく書いてあり小1の子供に説明がしやすかったです。(市内・40代)
- ・クイズがとてもたのしくて、大きいカンバッチをもらいました。また、ほかのきかくもしてほしいです。(市内・19歳以下、小学生)
- ・写真OKなものがもう少し増えれば(中略)さらに良くなると思うのですが…(市内・20代)
- ・夏休みなので子どもと一緒に来ました。小5はじっくり字まで読み、小1と年中はすぐにあきてしまいました。チラシを見て来ましたが、年中の子はもっと化石(多分恐竜かな?)があると思っていたようで少し残念そうでした。大人はじっくり見る事ができるとおもしろいと思いました。(下の子2人があきてしまったので、ゆっくり見れませんでした)残念…小学生なら高学年向きかな…(市内・30代)
- ・コーナー単位でいいので、写真が撮影できると良かった。できれば、ムービーで展示会を撮影し、記録としてもアーカイブとして、ネット上で見る事が出来ると楽しいし、子ども会、児童クラブ等でも、学校でも利用してもらえるのでは？(市内・50代)



展示風景

【1-2-5】聖徳太子1400年遠忌・伝教大師1200年遠忌記念企画展（第85回企画展）

「西教寺—大津の天台真盛宗の至宝—」結果

- 1、会期 令和3年10月9日（土）～11月23日（火・祝） [開館日数38日間]
- 2、会場 大津市歴史博物館 企画展示室A・B
- 3、主催 大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・京都新聞
- 4、特別協力 天台真盛宗・西教寺
- 5、後援 朝日新聞大津総局、e-radio、NHK大津放送局、共同通信社大津支局、KBS京都、産経新聞社、時事通信社大津支局、(株)ZTV滋賀放送局、中日新聞社、日本経済新聞社大津支局、BBCびわ湖放送、毎日新聞大津支局、読売新聞大津支局
- 6、観覧料 一般800円（640円） 高大生400円（320円） 小中生200円（160円）
- 7、展示作品 111件（228点） うち、重文16件、県指定4件、市指定4件
- 8、入館者数 3,756人（うち有料観覧者2,722人 無料観覧者1,034人）
◇有料内訳 個人 一般：1,076人 高大生：134人 小中生：17人
団体割引 一般：838人 高大生：91人 小中生：5人
市内（65歳以上）割引：268人 歴博カード会員：293人
- 9、関連講座 10月14日（木）持戒念仏の生涯—真盛上人絵伝記を垣間見る— 65人
講師：郷司泰仁（香雪美術館学芸員）
10月21日（木）西教寺と寺社伝奏坊城家 75人
講師：五十嵐正也（本館学芸員）
11月10日（水）伝教大師最澄の生涯と思想 60人
講師：井上優（滋賀県文化財保護課主幹）
11月18日（木）天台大師像をもちいる儀礼 57人
講師：西谷功（泉涌寺宝物館学芸員）
- 10、刊行物 『西教寺—大津の天台真盛宗の至宝—』図録
515冊（会期中）（A4版変形 144頁オールカラー 価格2,000円）

11、展覧会の成果と問題点

【内容面】

- ・天台真盛宗総本山である西教寺に伝わる寺宝について、本格的に紹介を行う初の展覧会である。
- ・寺内の悉皆調査を行い、今まで紹介されていなかった寺宝を多く確認できた。その成果を展示に活かしたため、初出陳やかたつて一度しか展示していない展示品がほとんどで、研究者をはじめ、一般の来館者の満足を得るものとなった。
- ・普段は、国立博物館などで保管している重要文化財を里帰りさせ、大津を代表する文化財を展示できた。

【広報面】

- ・天台真盛宗の機関紙『宝珠』と、『真盛宗報』に企画展の特集記事を執筆、掲載し、天台真盛宗の約500の末寺ならびに各檀信徒に広報を行った。さらにこれらの送付時に、展覧会のポスターとチラシを同梱していただいた。
- ・重要文化財聖観音立像のみを撮影可・SNS掲載可にした。ほとんどの来館者が撮影を行い、多くのSNSの投稿がみられた。

【集客・販売面】

- ・本来は、不断念仏相續十九万日大法会にあわせての開催であったが、コロナ禍により法会が延期となってしまった。これにより末寺の檀家の多くが本山参拝を控えたため、展覧会の観覧者も予想と比べ激減した。

【反省点と今後の課題】

- ・新型コロナ対策として、キャプションの文字数を3分の2に減らした（滞留時間の短縮）ため、一部にやや説明不足の文章があった。
- ・照明が暗く見えづらい、文字が小さいという意見が今回もみられた。
- ・コロナ禍により、市内の天台真盛宗末寺の調査が進まず、予定していた末寺の寺宝の展示を断念せざるを得なかった。

12. アンケート結果（抄） 全体回答者数 606人

◎大津市歴史博物館への来館回数

- ①初めて：214人 ②2～4回：160人 ③5回以上：116人 ④10回以上：108人

◎居住地

- ①大津市内：196人 ②滋賀県内(大津市外)：106人 ③京都府：113人 ④その他：188人

◎年齢

- ①～10代：13人 ②20代：32人 ③30代：19人 ④40代：82人 ⑤50代：117人
⑥60代：162人 ⑦70代：147人 ⑧80代以上：26人

◎展示内容の満足度について。

- [内容] ①大変満足：264人 ②満足：268人 ③普通：56人 ④不満：0人 ⑤大変不満：0人
[説明] ①大変満足：241人 ②満足：266人 ③普通：72人 ④不満：10人 ⑤大変不満：0人
[文字] ①大変満足：212人 ②満足：244人 ③普通：112人 ④不満：16人 ⑤大変不満：1人

◎自由記入欄より感想・意見・要望の一部を内容ごとに分類して抄録（一部中略のある他は原文のまま）

- ・西教寺についてほとんど知らなかったのですが、知らなくてもとても面白いと思う構成となっていて大変良かったです。（大阪府・20代）
- ・宗内の末寺の住職ですが、大変勉強になりました。ふだん仰ぐことが出来ない秘蔵の仏像やお軸に出逢わせていただく御縁に大感謝しています。説明板も丁寧にお作り下さり、ユニークな表記もあり、楽しい（ハンサムな～etc）内容でした。守山市・40代
- ・これだけ多くの宝物が西教寺にあることを知らなかったのが、大変感動致しました。滋賀県人として誇りに思います。（市内・70代）
- ・特徴をとらえたキャッチフレーズが付いているのが良かった。解読文シートが付いていて、読めないけど、おおよその内容を思い出す資料にありがたいと思いました。（京都府）
- ・説明文の頭のところに書いてある一文が面白かった。説明文自体も面白く、全て読んでしまった。仏像の背面を写真でも見せてもらえてうれしかった。なかなか見れない物なので。ページ数の多い図録を出してくださり、ありがとうございました。（岐阜県・40代）
- ・初出陳の資料が多くて感心した。西教寺の歴史の奥深さがよくわかる。（野洲市・30代）
- ・西教寺が法勝寺と深いつながりがあったことにおどろきと感動です。西教寺には時々行きますが、これだけのものは見られないので大変良かったです。（市内・70代）
- ・西教寺のすべてをたんのうしました。筆跡が聖經から手紙から豊富でたのしいうえ、絵画も仏画から中国風俗屏風まで、珍品出まくり。解説も興味深く、キャプションの一行が楽しい本当に企画展はずれなし。（愛知県・60代）

- ・初公開（出陳）のもの、今後の研究につながるであろうものも多く、有意義な展示会だと思う。（京都府・60代）
- ・西教寺の末寺の檀家の一人として来場しました。私共の寺に関する物が展示されていたのに感激した。（市内・70代）
- ・西教寺の長い長い歴史が、居ながら、手に取るように理解できて、仏教を伝える祖師達の御苦勞を垣間みることが出来て本当に感動しました。（京都府・50代）
- ・薬師如来坐像が一番気に入りました。地域寺院密着型の素晴らしい企画展です。この展示を観て、これから西教寺さんへ参ります。（神奈川県・40代）
- ・毎回のことながら、キャプションの分かりやすさは非常に秀逸であると思っています。今後とも分かりやすさと内容の濃さを両立した展示に期待しております。（市内・20代）
- ・最近撮影可能の仏像展示は画期的であり引き続きお願いします。（市内・90代）
- ・障壁画の実物が数点でも良いので見たかった。全体的には満足。明智光秀との関りが少しでも良いので欲しかった。（市内・60代）
- ・貴館にかかわらず展示会の説明文字はもう少し大きく明るめにしてほしい。（兵庫県・60代）
- ・大変良かった。今後、滋賀教区や、門中寺のミニ企画もお願いしたい。（市内・70代）
- ・企画展、常設展も含めて一各地展示で云える事ですが、高齢者どんどん増える昨今、展示室が明るさ照明等、暗すぎて高齢者はつらいー!!（高島市・70代）

【1-2-6】 れきはく講座の実施状況（令和3年4月～令和4年3月）

	開催日	曜日	回数	シリーズ名など	タイトル	講師	応募者数	当選者	参加者
1	5月11日	火	787	ミニ企画展「歴史資料でたどる大津事件」関連講座	大津事件と津田三蔵	樋爪修（元大津市歴史博物館館長）	166	80	59
2	5月29日	土	788	ミニ企画展「歴史資料でたどる大津事件」関連講座	湖国を訪れた二人の皇太子－ニコライとエドワード－	大月英雄（滋賀県立公文書館歴史公文書専門職員）	150	93	64
3	5月30日	日	789	トークイベント	TOKYO1964～大津に聖火がやってきた～	木津勝（本館副館長）	66	66	60
4	7月4日	日	—	ミニ企画展「大津絵れきはく蔵出し展2021」関連ワークショップ	ステンシルキットで大津絵を描いてみよう！	本館受付係	9	5	3
5	7月10日	土	790	ミニ企画展「大津絵れきはく蔵出し展2021」関連講座	疫病除けと大津絵	横谷賢一郎（本館学芸員）	137	80	67
6	7月22日	木	—	企画展「大津のどうぶつ博物館」関連イベント	トワイライトミュージアム（おとな向け1回目）	鯨井清隆（本館学芸員）、福庭万里子（本館学芸員）	8	8	8
7	7月30日	金	—	企画展「大津のどうぶつ博物館」関連イベント	トワイライトミュージアム（子ども向け1回目）	鯨井清隆（本館学芸員）、福庭万里子（本館学芸員）	26	26	23
8	8月8日	日	—	企画展「大津のどうぶつ博物館」関連イベント	トワイライトミュージアム（子ども向け2回目）	鯨井清隆（本館学芸員）、福庭万里子（本館学芸員）	90	38	36
9	8月19日	木	—	企画展「大津のどうぶつ博物館」関連イベント	トワイライトミュージアム（おとな向け2回目）	鯨井清隆（本館学芸員）、福庭万里子（本館学芸員）	14	14	8
10	8月21日	土	791	ミニ企画展「青い目の人形と子どもたち」関連講座	「青い目の人形」と子どもたち	福庭万里子（本館学芸員）	54	54	36
11	9月10日	金	792	フェノロサ学会共同開催講座	明治時代・外国人たちの日本美術収集	山本真紗子（日本学術振興会特別研究員）	延期		
12	9月25日	土	793	フェノロサ学会共同開催講座	日本近代木彫の魅力－伝統と革新－ 米原雲海の芸術と岡倉覚三の彫刻振興策	白根敏明（フェノロサ学会会員）	延期		
13	10月14日	木	794	企画展「聖徳太子－四〇〇年御遠忌 伝教大師－二〇〇年御遠忌記念企画展 西教寺－大津の天台真盛宗の至宝－」関連企画	持戒念仏の生涯－真盛上人絵伝記を垣間見る－	郷司泰仁（香雪美術館学芸員）	124	80	65
14	10月21日	木	795	企画展「聖徳太子－四〇〇年御遠忌 伝教大師－二〇〇年御遠忌記念企画展 西教寺－大津の天台真盛宗の至宝－」関連企画	西教寺と寺社伝奏坊城家	五十嵐正也（本館学芸員）	129	80	75
15	10月30日	土	796	佛教学部歴史学部×大津歴博コラボ企画	ワークショップ「オリジナル花押を作ろう」	佛教学部学部生、貝英幸（佛教学部教授）、高橋大樹（本館学芸員）	53	26	23
16	10月30日	土	797	佛教学部歴史学部×大津歴博コラボ企画	ワークショップ「オリジナル花押を作ろう」	佛教学部学部生、貝英幸（佛教学部教授）、高橋大樹（本館学芸員）	42	29	25
17	11月10日	水	798	企画展「聖徳太子－四〇〇年御遠忌 伝教大師－二〇〇年御遠忌記念企画展 西教寺－大津の天台真盛宗の至宝－」関連企画	伝教大師最澄の生涯と思想	井上優（滋賀県文化財保護課主幹）	172	80	60
18	11月18日	木	799	企画展「聖徳太子－四〇〇年御遠忌 伝教大師－二〇〇年御遠忌記念企画展 西教寺－大津の天台真盛宗の至宝－」関連企画	天台大師像をもちいる儀式	西谷功（泉涌寺宝物館学芸員）	125	80	57
19	1月27日	木	800		大津の古文書を読もう！（入門講座）	高橋大樹（本館学芸員）	84	84	74
20	2月3日	木	801		大津の古文書を読もう！（入門講座）	高橋大樹（本館学芸員）	84	84	71
21	2月10日	木	802		大津の古文書を読もう！（入門講座）	高橋大樹（本館学芸員）	81	81	65
22	2月17日	木	803	日本フェノロサ学会共同開催講座	明治時代・外国人たちの日本美術収集	山本真紗子（日本学術振興会特別研究員）	81	63	延期
23	2月23日	水・祝	804	日本フェノロサ学会共同開催講座	日本近代木彫の魅力－伝統と革新－ 米原雲海の芸術と岡倉覚三の彫刻振興策	白根敏明（東京富士美術館前学芸部長）	60	60	45

24	2月25日	金	805		運慶は鎌倉に行ったのか	浅湫毅（京都国立博物館上席研究員）	106	81	63
25	3月4日	金	806	叡山學院共同開催 特別公演	第10回 叡山學院 聲明公演	叡山學院修学生	64	30	中止
26	3月6日	日	807		関蝉丸神社下社の歴史と信仰－江戸時代を中心に－	西川雄也（京都大学大学院人間・環境学研究科博士 後期課程）	131	89	73
27	3月10日	木	808		近江の学僧－14世紀の説話・軍記との接点－	宇都宮啓吾（大阪大谷大学教授）	85	85	65
28	3月15日	火	809		【現地見学会】三井寺の涅槃会	鯨井清隆（本館学芸員）	102	32	28
29	3月16日	水	810	企画展「蘆花浅水荘と山元春拳画塾」関連イ ベント	【現地見学会】蘆花浅水荘と膳所焼美術館探訪	現地講師・本館学芸員	67	40	34
30	3月23日	水	811	企画展「蘆花浅水荘と山元春拳画塾」関連イ ベント	【現地見学会】蘆花浅水荘と膳所焼美術館探訪	現地講師・本館学芸員	86	41	36
31	3月24日	木	812	日本フェノロサ学会共同開催講座	明治時代・外国人たちの日本美術収集【2/17から再調整】	山本真紗子（日本学術振興会特別研究員）	81	81	38
32	3月26日	土	813	企画展「蘆花浅水荘と山元春拳画塾」関連講 座	「蘆花浅水荘と山元春拳画塾」スライドトーク	横谷賢一郎（本館学芸員）	52	52	38
計							2,529	1,742	1,299

対前年度 +20回
※中止、延期を除くと+16回 対前年度参加者比 +66%

【参考】2020年4月～2021年3月は18回（うち中止6回）
参加者は630人

【新型コロナウイルスの影響による開催状況の変更について】

- ◆2020年9月以降、下記の予防対策を講じたうえで、講座を再開した。
 - ・会場（歴史博物館講堂）の座席について前後左右の間隔を確保するために、1回の定員を50名（2021年1月以降は80名）とした（従来は定員100名）。
 - ・館内は空調設備により外気をとりこみ常時換気をしているが、さらに必要に応じて会場のドアや窓の開放等をおこない換気をおこなった。
 - ・受付および講師演台に、飛沫感染防止用のアクリルボードを設置した。
 - ・来場者へ次のように要望した。
 - ①ご来場の際には、必ずマスクをご着用ください。
 - ②事前にご自身の体調に十分ご留意いただき、体調がご不安な方はご来場をお控えください。また、以下に該当する場合は、ご来場をお断りいたします。
体調不良の諸症状がある方（37.5度以上の発熱、咳・咽頭痛、全身倦怠感、味覚・嗅覚障害、その他の体調不良）、来場者ご本人や身近な方に新型コロナウィルス感染症の疑いがある方、過去14日以内に、新型コロナウィルス陽性者との濃厚接触がある方。
 - ③当日、講座会場受付にて体温測定をおこない（非接触型の体温計使用）、37.5度以上の発熱がある方はご入場をお断りします。
 - ④手洗い、手指の消毒、咳エチケット、他の方との間隔の確保等、感染防止対策にご協力ください。
 - ⑤講座会場内（講堂）やロビーなどでは、お客様同士の間で一定の距離をとり、会話はできるだけお控えください。
 - ⑥厚生労働省が推奨する新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）や、滋賀県が実施する「もしサボ滋賀」もあわせてご活用ください。
- ◆また、国や県市が示すイベント定員制限の緩和にともない、定員（および当選者数）については順次変更している。

【2021年8月～9月のまん延防止等重点措置、緊急事態宣言下の対応について】

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、滋賀県が2021年8月8日にまん延防止等重点措置の適用を受けたことにより、感染症対策を十分に採り、定員を70名に減少したうえでできはく講座を開催した。2021年8月27日に緊急事態宣言に移行したことにより、感染拡大防止の観点から、9月開催のれきはく講座に関しては2022年2～3月に開催を延期した。

【1-2-7】子ども向けイベントの結果

大津市歴史博物館・成安造形大学共同企画 夏休みおもちゃづくりワークショップ2021

歴史博物館では、平成14年（2002年）から毎年、小学校の夏休み時期に合わせて、「夏休みおもちゃづくりワークショップ」を開催している。これは、成安造形大学の協力を得た博学連携事業で、美術領域を専門とする大学生とともに、歴史文化をテーマとした子ども向けワークショップをおこなうものである。大学生は大学のプログラム授業として参加し、ワークショップ内容の考案、準備、当日の指導などを担当する。これまでに延べ500人以上の学生が参加してきた。本事業は、市内の小学生が親子で初めて博物館を訪れるきっかけのひとつとなっており、令和2年度までに6,100人以上（延べ人数）の子どもたちが参加した。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、従来の内容を大きく変更した。子どもたちが家庭で楽しめるおもちゃキットを考案・制作し、各家庭への送付やホームページ公開をする方法で実施した。

令和3年度は、令和元年度以前のように、対面で行ったが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から、1回あたりの参加者数を少なくした。その代わりに回数を増やして、総参加者数を維持できるようにした。また、完成品の展示は行わなかった。

1. ワークショップ期間（作品制作期間）

期 間 令和3年8月3日（火）～8月6日（金）[4日間]

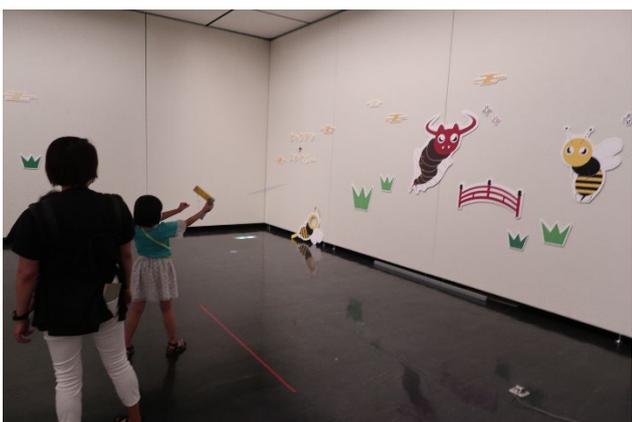
参加申込者 のべ 359人 （令和元年度 参加申込者のべ 639人）

開催日		おもちゃ名	申込	参加者
8月3日（火）	am	ゴーゴーアニマルカー	18	15
	pm		14	11
	am	どうぶつシルエットパズル	14	14
	pm		12	10
8月4日（水）	am	ゴーゴーアニマルカー	15	10
	pm		14	11
	am	どうぶつシルエットパズル	14	13
	pm		9	8
8月5日（木）	am	合体！パチットモンスター	17	16
	pm		16	14
	am	ハックアシ☆スナイパー	74	13
	pm		34	14
8月6日（金）	am	合体！パチットモンスター	15	12
	pm		15	15
	am	ハックアシ☆スナイパー	49	14
	pm		29	11
合計			359	201

- ①ゴーゴーアニマルカー（紙パックでくるまを作ろう！）
- ②どうぶつシルエットパズル（自由に描こう！どうぶつのパズル）
- ③合体！パチットモンスター（空き缶と磁石でつくるオリジナルどうぶつ！）
- ④ハックアシ☆スナイパー（段ボールの弓矢をつくってあそぼう！）

3. 事業の概要と結果

- ・ 今年度は夏の企画展「大津のどうぶつ博物館」に関連して、動物をテーマにしたおもちゃ4種を学生たちが考案した。年度初めに、博物館から学生たちへ事業の概要と企画展の趣旨についてレクチャーした上で、資料提供を行い、学生たちがそれぞれの専門分野を活かしながら模索したことから、バラエティ豊かなおもちゃを取り揃えることができた。
- ・ 実際の制作前には、学生たちが子どもたちの前でおもちゃのテーマに沿った導入映像やスライドを上演した。各班バラエティ豊かな内容であり、おもちゃづくりの導入として効果的に子どもたちに伝えることができていた。
- ・ 例年どおり、当館ホームページとツイッター、広報おおつへの掲載、大津市内の小学校全児童へのチラシ配布で告知した。
- ・ 2か所（博物館講堂と企画展示室B）での同時進行であったため、学生数が不足することがあった。
- ・ おもちゃの種類によって、申込みが極端に偏る結果となったが、いずれのおもちゃも子どもたちに好評であった。
- ・ ワークショップ終了後に企画展を観覧する親子連れが多く、企画展への一定の集客効果があった。



左上：導入・説明部分

右上：制作部分

左：制作したおもちゃで遊ぶ

ミニ企画展「大津絵 れきはく蔵出し展 2021」関連ワークショップ

「ステンシルで大津絵を描いてみよう！」

1. 企画立案理由

大津の歴史と文化を発信する当館には、年間多くの来館者があるがその年齢層は高い。未来を担う子どもたちにもっと大津の魅力を伝えたいという思いから、受付係の職員が主体となって小学生向けワークショップを企画立案した。対象は小学生だが募集を家族単位とすることで、その保護者である若い世代の来館促進にもつながれば、という狙いもある。開催時期をミニ企画展「大津絵 れきはく蔵出し展 2021」に合わせることで、大津絵に興味を持ち知識を深めてもらうことを目的としている。

2. ワークショップ内容

江戸時代における大津の代表的な名物のひとつ「大津絵」。子どもから大人まで楽しめる庶民的な画風が特徴で、今も脈々と描き継がれている。大津絵は独自の道具を使い大まかな部分を描いた後、細かな部分は肉筆で仕上げていくという伝統的な手法で描かれている。合羽摺（かっぱずり）、版木押し（はんぎおし）、分廻し（ぶんまわし）などの技法がある。

ワークショップではその伝統技法を現代風にアレンジし、誰もが気軽に楽しめるよう工夫した。画題は一番人気の「鬼念仏（おにのねんぶつ）」を取り上げ、それに用いられる合羽摺をステンシルに変更するよう試みた。ステンシルの型紙は渋紙ではなくクリアファイルに、刷毛塗りはスポンジ塗布に変え、小さな子どもでも失敗が少なく早くきれいに仕上がる手法を確立した。絵の具もステンシル部分は速乾性のあるアクリル絵の具を用意。手描き部分は子どもたちが使い慣れている水彩絵の具を使用した。紙は市販の扱いやすいPC用A4判伊勢和紙を使用した。

ワークショップ当日は、まず常設展示室ミニ企画展コーナー「大津絵 れきはく蔵出し展 2021」を学芸員の解説付きで観覧し、大津絵について知識を深めてもらった後、実際に大津絵を描いてみるという流れで実施した。

新型コロナウイルス感染症対策として、募集は家族単位での申込み受付とし、当日は参加者同士が対面しない向きで作業テーブルを設置。体験学習室の換気と備品の消毒、マスク着用、手指消毒などを徹底して行った。

3. 実施内容

日時：2021年7月4日（日）10時～12時（受付9時30分～）

場所：大津市歴史博物館（体験学習室・常設展示室）

対象：小学生（付き添い親子での参加可）

参加数：3組（大人4名、小学生3名、計7名）※募集5組に対し応募10組（抽選）

参加費：小学生1名につき材料費1キット300円＋人数分の観覧料（団体料金）

4. 成果と今後の課題

参加予定5組のうち欠席が2組あったので少人数での開催となったが、参加されたご家族にはゆったりと余裕を持って楽しんで頂けたようだった。制作においては、子どもはもとより保護者の方も熱心に説明に聞き入っておられ、制作の手助けをするなど大津絵に興味を持ってくださったことがよくわかった。ワークショップを終えてから参加者が再度常設展示室に入る姿も見られた。実際に大津絵を描いた後にあらためて江戸時代の大津絵を見ることで、大津絵や博物館自体をより一層満喫できたのではないかと。それが何よりの成果であろう。

制作スペースの関係で一度に5組以上の募集はできないが、年間の開催回数を増やすなど、より多くの方に来場してもらえるよう準備している。来年度の実施計画も立案中であり、また、落選者向けにホームページでの制作キットデータ配布を予定している。

4. 当日の様子と資料紹介



ワークショップ会場



ワークショップ会場



制作風景（ステンシル作業中）



制作風景（手描き作業中）



ワークショップ会場 説明パネル

大津絵ワークショップ 配布資料

- 左上：大津絵解説シート
- 左下：大津絵解説シート
- 右上：ステンシル解説シート
- 右下：ステンシルキット（部分）仕上がり見本

【1-2-8】小中学校等による博物館利用状況（令和3年4月～令和4年2月）

【常設展示団体観覧】 ※市内小中学校の団体観覧は申請により常設展示観覧料を減免。

来館日時	学校名（学年）	児童・生徒数	備考
5月28日（金）	田上小学校	児童65人	引率4人
6月18日（金）	仰木の里小学校	児童32人	引率3人
11月2日（火）	瀬田中学校	生徒12人	引率1人
合計 117人（児童・生徒数109人、引率8人）			

【小学校への出張授業対応】

例年、市内小学校からの依頼に応じて学芸員が出向いて授業をおこなっている。今年度は、小学校3年生社会の「昔の暮らし」や「市のうつりかわり」に関する内容を中心に複数件の依頼があったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインでの実施や、昔の道具のみを学校に貸し出すなどの対応とした。

実施日時	学校名・学年	クラス数	内容
1月26日	志賀小学校3年生	3クラス（人数不明）	市の移り変わり（オンライン）
2月-----	瀬田南小学校3年生	3クラス（人数不明）	昔の暮らし（道具の貸し出し）
2月16日	平野小学校3年生	5クラス（175名）	市の移り変わり（オンライン）
合計 のべ3校			

（参考）令和元年度：4校（出講3、来館1） 令和2年度：7校（出講7、来館0件）

【職場体験受け入れ】

大津市内の中学校2年生がおこなう職場体験事業について、令和元年度まで例年数校程度を受け入れており、新規に要望があれば随時受け入れてきた。今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、市内一斉中止となった。

なお、代替策として1校から職場インタビューとしての来館依頼もあったが、これも新型コロナウイルス感染拡大により中止となり、郵送での対応となった。

【参考】校外学習などでの団体観覧状況

来館日時	学校名（学年）	児童・生徒数	備考
5月28日（金）	田上小学校（6年）	65人	引率4人
6月18日（金）	仰木の里小学校（6年）	32人	引率3人
10月27日（水）	湖南省立甲西北中学校	147人	引率14人
10月30日（土）	豊橋市立牟呂中学校	27人	引率3人
11月2日（火）	瀬田中学校	12人	引率1人
11月9日（火）	大津高等学校	49人	引率2人
12月4日（土）	大阪市立花乃井中学校社会科部	10人	引率2人
1月28日（金）	県立守山中学校（1年）	4人	引率無し
合計 375人（児童・生徒数346人、引率29人）			

【1-2-9】 広報・情報発信の状況

1. プレスリリース（広報課を通じての記者発表）

発表日	件名
令和3年 6月3日	重要文化財眞光寺所蔵銅造観音菩薩立像（奈良時代）と本来一具であった可能性がある銅造勢至菩薩立像の発見
7月7日	企画展「大津のどうぶつ博物館」の開催
7月21日	ミニ企画展「青い目の人形と子どもたち」の開催
10月12日	企画展「西教寺－大津の天台真盛宗の至宝－」の開催
12月3日	ミニ企画展「ゆかいな木版えはがき－寅年の年賀状－」の開催
令和4年 1月21日	ミニ企画展「聖衆来迎寺の手鑑～古筆切×デザイン～」の開催

2. ホームページ・SNS等の公開状況

◆ホームページ更新について

[ホームページアドレス：<http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/>]

企画展、特別展示の詳細や主な展示作品については、各トピックについて news 頁を作成して情報を公開し、ホームページ更新のお知らせや学芸員視点での資料紹介について Twitter を活用している。また、貸しギャラリーやその他の開館情報については、ホームページ・Twitter 双方で告知するようにしている。

◆イラスト・漫画や動画での企画展示内容の発信

令和3年度ミニ企画展「歴史資料でたどる大津事件」（会期：4月20日～6月6日）では、複雑な大津事件の内容をイラストと文章でわかりやすく紹介した漫画を当館職員が作成、パネル展示に加えて Twitter などでも発信したところ、複数のメディアで紹介され好評となった（朝日新聞 5/4、京都新聞 5/4、読売新聞 5/25、びわ湖放送「光ルおおつ」5/15 放送など）

また、ミニ企画展「青い目の人形と子どもたち」（会期：7月27日～9月5日）では、その歴史を紹介する動画を作成し、Twitter で公開した。現在は、大津市役所 YouTube チャンネルで公開している。（動画 URL：www.youtube.com/watch?v=NNjIS3L0Z9o）

◆大津市歴史博物館公式 Twitter の更新状況

[アカウント名：otsu_rekihaku URL：www.twitter.com/otsu_rekihaku]

令和4年3月1日時点で総ツイート数 950、フォロワー数 1,845（令和3年3月時点 1,227）

◆大津市歴史博物館公式 Instagram を開始

[アカウント名：otsu_rekihaku URL：www.instagram.com/otsu_rekihaku/]

令和4年2月1日より、大津市歴史博物館公式 Instagram での投稿を始めた。今後、Twitter と合わせて、当館事業や大津市の歴史文化に関する情報を発信する。

運用方針 URL：www.city.otsu.lg.jp/soshiki/070/2451/g/46596.html

【1-3-1】講師・調査派遣等の状況（令和3年度）

1 講師派遣

5月18日		堅田歴史同好会
5月27日	堅田集落の案内	滋賀県立大学人間文化学部・地域文化学科
6月20日	本福寺地域文化講座「堅田歴史探求」 湖族がみた中世の堅田	本福寺
7月10日	「この人に聞きたい」 東京五輪について	FM おおつ
7月10日	令和3年度おおつ学「大津人実践講座」 「歴史資料でたどる大津事件」	教育委員会生涯学習課
7月25日	大津まちなか大学大津祭学部「まちの歴史」	大津祭曳山連盟
9月25日	近江八景と両市の眺望ポイントの 歴史・文化について	びわ湖大津草津景観推進協議会
9月26日	大津まちなか大学大津百町おもてなし学部 百町案内の極意－まちと歴史をつなげる視点－	大津市都市魅力づくり推進課
10月16日	大津百町昔にタイムスリップ街歩きツアー	大津駅観光案内所 OTSURY
11月2日	古写真にみる大津の移り変わり	滋賀県安全運転管理者協会
11月13日	第11回景観まちづくりフォーラム 東海道・大津宿の歴史とまちなみ	公益社団法人日本建築家協会
12月1日	滋賀県の渡来人	日野町国際親善協会
12月21日	大津の仏像	堅田歴史同好会
1月20日	古都古都ウォーク（膳所）	滋賀県社会福祉協議会
1月22日	大津百町和菓子屋めぐり	大津駅観光案内所 OTSURY
1月28日	古都古都ウォーク（石山）	滋賀県社会福祉協議会
3月5日	江戸時代の比叡山麓の災害と防災	和邇文化センター

2 調査派遣

6月15日	列品修理の請負候補者選定	京都国立博物館
3月23日	市内の仏像調査	山口県柳井市

3 委員等

- ・ 滋賀県博物館協議会 研修委員・広報委員（滋賀県博物館協議会）
- ・ 「大津百町百福物語」ブランド選考委員会委員（大津商工会議所）
- ・ 清水寺史編纂委員会 委員
- ・ 総本山知恩院史料編纂所 編纂員
- ・ 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境研究所 共同研究員
- ・ 滋賀県立陶芸の森陶芸館 収蔵品価格評価委員
- ・ 『天台学大辞典』編纂委員（天台宗）
- ・ 『西教寺の仏教美術』編纂委員（天台真盛宗総本山西教寺）
- ・ 『園城寺の仏像』編纂委員（天台寺門宗総本山園城寺）
- ・ 「滋賀の仏さま展（仮称）」企画委員（京都新聞）
- ・ 独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館調査員（彫刻）
- ・ 収蔵品価格評価委員（滋賀県立陶芸の森陶芸館）

【1-3-2】収蔵資料の貸出し状況・特別利用の状況（令和3年度）

○岐阜市歴史博物館

特別展「壬申の乱」

会期：令和3年3月26日～5月16日

・市指定文化財大津京関係遺跡出土品のうち

崇福寺跡出土	せん仏断片	一括	近江神宮蔵（寄託品）
崇福寺跡出土	塑像断片(螺髪)	1点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	蓮華文方形軒瓦	2点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	複弁蓮華文軒丸瓦	2点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	単弁蓮華文軒丸瓦	2点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	三彩脚付盤	1点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	二彩皿	1点	近江神宮蔵（寄託品）

○京都国立博物館

凝然国師没後七百年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」

会期：令和3年3月27日～5月16日

・慈威和尚像	1幅	西教寺蔵（寄託品）
・日吉山王垂迹神曼荼羅図	1幅	西教寺蔵（寄託品）
・受戒本尊図（法勝寺伝来）	1幅	西教寺蔵（寄託品）
・義瑞大和尚遺誠	1巻	園城寺（法明院）蔵（寄託品）
・梵経 智遠敬長模	1冊	園城寺（法明院）蔵（寄託品）
・順道敬徳像	1幅	園城寺（法明院）蔵（寄託品）
・フェノロサ受戒表白	1枚	園城寺（法明院）蔵（寄託品）

○愛荘町立歴史文化博物館

春季特別展「入門！古代寺院 一旧愛知郡一」

会期：令和3年4月11日～同5月23日

・崇福寺跡出土舍利容器(複製) 一括 本館蔵

・市指定文化財大津京関係遺跡出土品のうち

崇福寺跡出土	皇朝十二銭	24点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	複弁蓮華文軒丸瓦	2点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	単弁蓮華文軒丸瓦	1点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	方形丸瓦	1点	近江神宮蔵（寄託品）
南滋賀町廃寺出土	飛雲文鬼瓦	1点	近江神宮蔵（寄託品）

○龍谷ミュージアム

特別展「アジアの女神たち」

会期：令和3年9月18日～同11月23日

・絹本著色訶梨帝母像 1幅 園城寺蔵（寄託品）

○八代市立博物館未来の森ミュージアム

秋季特別展覧会「妙見信仰と八代」

会期：令和3年10月22日～同11月28日

・三井曼荼羅 1幅 園城寺蔵（寄託品）

・太上秘法鎮宅靈符 1幅 園城寺蔵（寄託品）

○比叡山国宝殿

展覧会「戦国と比叡－焼き討ちからの復興－」

会期：令和3年10月1日～12月5日

・明智光秀書状 1通 個人蔵（寄託品）ほか6件

○名古屋市博物館

特別展「大雅と蕪村」

会期：令和3年12月4日～同4年1月30日

・運座図 横井金谷筆 1幅

○龍谷大学博物館実習室

龍谷大学文学部博物館実習室十二月展「装いの美」

会期：令和3年12月1日～同月4日

・藤慶板 近江八景のうち栗津・堅田・比良・歌川広重 3枚

○京都国立近代美術館

「サロン！雅と俗－京の大家と知られざる大坂画壇」展

会期：令和4年3月23日～同年5月8日

・雛飾り図 狩野永岳 1幅 個人蔵（寄託品）

・奉時清玩帖 諸家 2冊 個人蔵（寄託品）

○博物館資料の特別利用 77件

【1-3-3】貸しギャラリーの利用状況（令和3年4月～令和4年2月）

	展示期間	展覧会名	主催	観覧者数	利用展示室
1	4/8～4/11	第15回 洋画合同作品展	小野油絵同好会「悠々」	313	B
2	4/23～4/25	第34回 全国シルバー書道展滋賀展	日本書芸院シルバー書道展 滋賀展実行委員会	645	A
3	4/23～4/25	第16回 滋賀県書作家協会展	滋賀県書作家協会	645	B
4	5/7～5/9	マイカイキルト教室作品展	マイカイキルト	383	B
5	5/11～5/16	第66回 滋賀県美術協会展	滋賀県美術協会	781	A・B
6	5/18～5/23	第33回 美術サークル4.0展	美術サークル4.0	516	A
7	5/20～5/23	第23回 花寿会合同作品展	花寿会	329	B
8	5/25～5/30	湖青展	湖青会	301	B
9	6/1～6/6	第10回 しがの風展	しがの風	593	A・B
10	6/17～6/22	第71回 大津市美術展覧会	大津市湖都文化実行委員会	1,343	A・B
11	6/26～6/28	第44回 大津市写真展覧会	大津市湖都文化実行委員会	1,011	A・B
12	7/8～7/11	書・水墨画・刻字・篆刻展	時の会	326	A
13	7/27～8/1	第21回 錦織美術倶楽部作品展	錦織美術倶楽部	348	B
14	8/25～8/29	滋賀水彩展	滋賀水彩画会	270	B
15	9/16～9/20	第41回 滋賀県書道展	(公社)滋賀県書道協会	587	A・B
16	9/23～9/26	第14回 玄風書道展	玄風書道会	669	A
17	12/7～12/12	令和3年度 現代大津絵展	日本大津絵文化協会	669	B
18	12/10～12/12	大津市立幼稚園こども展	大津市教育委員会ほか	1,677	A
19	12/15～12/19	第3回 大津写真連盟合同写真展覧会	大津写真連盟	261	B
20	1/7～1/9	雅友書展	書道研究雅友会	257	A・B
21	1/14～1/18	大津市小中学校児童生徒書初め展	大津市教育委員会	1,715	A・B
22	1/20～1/26	大津市特別支援学級・養護学校作品展	大津市教育委員会	1,714	A・B
23	1/28～2/1	大津の子ども総合美術展	大津市教育委員会	1,694	A・B
24	2/11～2/13	第61回 滋賀県書き初め展覧会	滋賀県書道協会	6,240	A・B
25	2/19～2/20	令和3年度 滋賀県高等学校書道科教員 作品展	滋賀県高教研書道部会	77	B
26	3/18～3/21	パッチワーク作品展	キルトフープ	452	B
27	2/19～2/22	第19回滋賀県立膳所高等学校書道部 書展萌芽	膳所高校書道部	296	B

計 25回 24,112

対前年度 8,660

参考 令和2年4月～令和3年2月 13回 総観覧者数 15,452

〔参考Ⅰ〕 大津市歴史博物館の概要

Ⅰ. 博物館の概要

- ・開館日：平成2年10月28日
- ・博物館法の分類：登録博物館（平成8年度より重要文化財公開承認施設）
- ・博物館の運営方針：当館は、大津の豊かな歴史と文化を調査研究し、その成果を常設展示や企画展をはじめとする様々な事業のなかで紹介し、地域への理解と愛着を深めていただくことを目的に博物館活動を重ねています。

Ⅱ. 主な活動

① 展示活動

a. 常設展示「大津の歴史と文化」

南北に細長い地理的特質を持ち、各地域ごとに異なった歴史と文化を形成するという大津市の特徴から、地域に焦点を当てた6つのコーナーからなる「テーマ展示」と、大津市全域の歴史を年代順にたどる「歴史年表展示」によって構成しています。

また、平成11年度から常設展示内の1コーナーを「ミニ企画展」と名づけ、博物館の収蔵品や調査成果を踏まえて、2ヶ月程度を会期に年間7～8回、様々なテーマの小展示を行っています。

b. 企画展示

当館には企画展示室A（約500㎡）と企画展示室B（約250㎡）があります。これらの展示室で年間3回程度の企画展を実施しています。

② 資料の調査収集、研究活動

市内を中心に、大津に関係する資料の調査を日常の博物館活動として実施しています。またこうした活動の中で、資料の収集を行い博物館収蔵品の充実と文化財の保護を行うとともに、レファレンス対応の基礎資料としています。

③ 普及活動

a. れきはく講座

開館当初より「土曜講座」や現地見学会「ふるさと大津歴史教室」を実施してきましたが、現在は「れきはく講座」という名称に統一し、年間30回程度の講座を開催しています。

b. 夏休み子どもワークショップ

平成14年度から、成安造形大学と共同で実施しています。

c. れきはくカード

1年間有効の定期券で、常設展示、企画展示を観覧いただけるほか、れきはく講座や刊行物の割引等を受けられます。現在会員数411名（令和元年11月現在）。

④ その他

a. 貸館（企画展示室の利用）

当館が企画展示室を使用していない期間に限り、同室をギャラリーとして利用できるようになっています。大津市美術展覧会や市内小中学校の絵画・書道の展示をはじめ、市民の芸術活動の発表の場としてご利用いただいています。

3. ここ5年間の主な活動

①利用者数の推移

(人)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
常設展示観覧者数	18,947	17,592	21,408	19,661	20,667
企画展観覧者数	10,586	9,576	22,504	14,833	11,633
講座等参加者数	3,200	3,250	2,906	3,968	630
貸館観覧者数	38,828	43,225	35,095	34,824	16,645
館外展示観覧者数	—	877	313	—	—
総利用者数	71,561	74,520	82,416	73,286	49,575

②企画展の開催状況

平成28年度 「発掘された日本列島 2016」

「大津の浄土宗寺院 新知恩院と乗念寺」

志賀町・大津市合併10周年記念「村の古地図－志賀地域を歩く－」

平成29年度 「田上てぬぐい－暮らしと文化－」

《大津京遷都1350年記念》企画展「大津の都と白鳳寺院」

本多氏入封400年記念企画展「膳所城と藩政－築城から幕末十一烈士事件まで－」

平成30年度 大津市制120周年記念企画展「60年前の大津」

湖信会設立60周年記念企画展「神仏のかたち－湖都大津の仏像と神像－」

「フェノロサの愛した寺 法明院－三井寺北院の名刹－」

令和元年度 「大津南部の仏像－旧栗太郡の神仏－」

「大津絵－ヨーロッパの視点から－」

重要文化財「大津百艘船関係資料」指定記念「江戸時代の琵琶湖水運」

令和2年度 特集展示「明智光秀と戦国時代の大津」

重要文化財指定記念特別展示「金台院蔵「天台三祖師像」と天台の祖師」

開館30周年記念企画展「聖衆来迎寺と盛安寺－明智光秀ゆかりの下阪本の社寺－」

開館30周年記念企画展「芭蕉翁絵詞伝と義仲寺」

③企画展示室利用件数の推移

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
37件	40件	33件	34件 (うち4件中止)	13件

〔参考2〕大津市歴史博物館の基本的運営方針について

■「大津市歴史博物館基本的運営方針」策定の経過

大津市歴史博物館は平成2年10月に開館しました。以来、資料調査及び常設展示・企画展示・れきはく講座・ホームページ等による歴史情報の発信等、さまざまな事業に取り組んできましたが、この間、博物館をとりまく社会状況の変化のなかで、あらためて今、博物館の存在意義が問われています。

そういった状況のもと、平成23年12月20日付けで、文部科学省より「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示されました。同告示においては、博物館の設置目的を踏まえた基本的運営方針、年度ごとの事業計画の策定に努めることとされ、また、利用者及び地域住民、社会の要望への留意、学校、他の博物館等との緊密な連携、協力を努めるものとするなどが提示されました。

それに基づき、大津市歴史博物館では、あらためて平成26年度から、「基本的運営方針」の原案作成に着手しました。原案作成にあたっては、附属機関である大津市歴史博物館協議会に原案を諮問し、2年間に渡る討議を経て、同協議会から出された答申をもとに、このたび「大津市歴史博物館が目指すもの」「大津市の歴史と文化の魅力とは」「基本的運営方針と活動目標」からなる基本的運営方針の原案を作成しました。この原案について、平成29年2月17日から3月8日の間に実施したパブリックコメント、大津市教育委員会定例会における議決を経て、策定いたしました。

なお、この基本的運営方針については、「大津市教育振興基本計画」の策定年度である平成32年度から5年ごとを目途に、必要に応じて見直すこととしています。

■大津市歴史博物館の基本的運営方針（平成29年3月23日策定）

1、大津市歴史博物館が目指すもの

・豊かな歴史と文化をともに学び、ともに未来へ引き継ぐ

歴史博物館は、大津市の豊かな歴史と文化の素晴らしさを、そこに暮らす人々とともに学ぶことによって、郷土への愛着と誇りを育むとともに、多様でかつ地域性豊かな郷土の魅力を発信し、その担い手を育て、さらに未来へと引き継いでいきます。そして、人と人、人とモノとの出会いによって生みだされる学びの楽しさを、子どもたちをはじめとする幅広い世代の人々とともに分かち合える場となるような博物館を目指します。それとともに、誰もが暮らしてよかった、訪れてよかったと思えるような大津市のまちづくりにも寄与することを、歴史博物館の使命とします。

2、大津市の歴史と文化の魅力とは

(1) 琵琶湖と緑の山々の豊かな自然の恵みによって育まれた歴史と文化

大津市は、魅力にあふれた都市です。日本一広い琵琶湖が、目の前に広がっています。背後は、緑の山々に囲まれています。その豊かな自然の恵みにより、先人たちは、大津市ならではの歴史と文化を育んできました。大津京、渡来文化を示す遺跡、仏教文化の聖地、水陸交通の要所、大

津絵と近江八景、明治以降の近代化など。その魅力は多様で、またこれからも、さらなる調査によって、新たな魅力が発見されていくことでしょう。

(2) 個性あふれる地域によって生み出された多様な歴史と文化

大津市は、明治31年(1898)の市制施行以来、度重なる合併により、市域が南北に細長いという地理的な特徴を持っています。山村部、湖辺や農村、また門前町・宿場町・港町・城下町といった都市部など、それらの多様な特徴を持つ地域に暮らす人々の営みによって、大津市には、個性豊かな歴史と文化が育まれてきました。

(3) 数多くの国宝・重要文化財が残される一方、未指定の埋もれた文化財が人知れず眠る、未知の可能性を秘めた歴史と文化

世界遺産を擁する大津市には、国宝・重要文化財といった国指定文化財が、京都市・奈良市に次いで3番目と、数多く残されています。また、未指定で、地域の人々によって守られてきた文化財も豊富です。それでもまだ、人知れず埋もれている文化財が、多く眠っています。大津市の歴史と文化は、未知の可能性を秘めた魅力にあふれています。

(4) 日本の各地域へ、さらに世界へと広がる歴史と文化

歴史をさかのぼると、中国大陸や朝鮮半島からの渡来文化、インドで発祥し、シルクロードを通じて我が国に伝えられた仏教、延暦寺・園城寺・西教寺・石山寺や日吉大社など日本の神仏信仰の中心的な位置にある多くの社寺、さらに、東西交通の要所といえる琵琶湖水運や東海道、北国海道、峠越えの道などの陸上交通。大津市の歴史と文化は、全国、さらに世界へと、無限の広がりを持っています。

3、基本的運営方針・活動目標

基本的運営方針 Ⅰ

地域に埋もれた歴史と文化をともに調べ、ともに守る

大津市の歴史と文化の魅力でも触れたように、国指定文化財の豊かさとともに、市内の各地域には、地域性を持つ未指定の文化財が人知れず眠っています。また、日本の各地に、歴史的なつながりを示す文化財も数多く残されています。それらの文化財を守ってこられた地域の人々とともに調査し、その保存、活用について考えます。

◇活動目標(Ⅰ) 資料の調査収集・研究活動の推進

市内、市外を問わず、本市の歴史と文化の特徴に関わる資料を積極的に調査収集し研究する。調査に際しては、資料所蔵者(個人・団体を含む)への取材により、資料の伝来状況を記録し、資料の持つ歴史的意義について明らかにする。

(具体的事業案)

- ① **継続的な資料調査の実施** 調査対象資料は、絵画・彫刻・工芸・歴史・古文書・民俗・考古の各分野とする。また、分野を超えた複合的な調査・収集を、適宜実施することにより、資料に対する新たな価値を見出す。
- ② **他機関等専門家との合同による資料調査** 文化庁、関係研究機関(大学・博物館など)との合同調査を積極的に実施し、資料の歴史的意義を明らかにする。

- ③ **資料調査成果の発表と共有化** 資料調査の成果を『大津市歴史博物館研究紀要』等の学術雑誌や研究会において発表することにより、大津市の豊かな歴史と文化の共有化を図る。

◇活動目標(2) 調査によって得られた情報のデータ化と収蔵資料の充実

調査収集した資料の整理と目録化を行うとともに、当館で導入している「歴史博物館収蔵品データベース」に蓄積し、今後の活用可能な基礎データとする。

(具体的事業案)

- ① **調査資料の詳細なデータ化** 調査資料の整理にあたっては、調査で得られたあらゆる情報（聞き取り調査も含め）を「収蔵品データベース」等に蓄積し、資料がもつ情報を含めて次代に引き継ぐ。
- ② **収蔵資料の充実** 購入・受贈・受託などの方法による博物館収蔵資料の充実につとめ、展示、レファレンス等への活用を図る。
- ③ **収蔵資料保存に向けた施設の充実** 定期的な資料の燻蒸により、保存環境を良好に保つとともに、空調機器など設備の維持管理、改修につとめる。また、資料の収蔵スペースの確保についても検討する。

◇活動目標(3) 地域資料の保存、活用に向けた情報の共有化と学習支援の推進

資料調査の成果を所蔵者に還元し、資料保存に関する情報の共有化を進める。また資料をもとにした地域学習の要望に対して博物館も積極的に参加し、その活用方法などについて、ともに考える。

(具体的事業案)

- ① **資料保存についての情報の共有化** 博物館と地域で資料の保存環境に関する情報を共有化し、資料の劣化や散逸を防ぐ。
- ② **資料を活用した共同学習の推進** 資料を素材とした地域学習の要望に対し、博物館も積極的に参加し、その活用方法について、ともに考え、資料に盛り込まれた地域の特性についての共同学習を進める。

基本的運営方針 2

あらゆる世代、あらゆる地域に対し、歴史情報の共有化に向けた情報発信を行う

調査によって収集した、大津市の歴史と文化の魅力を、未来を担う子どもや若者をはじめとするあらゆる世代、市内外を含めたあらゆる地域の人々に伝え、そして歴史と文化の新たな担い手を育てるために、その共有化に向けた情報を発信していきます。また発信にあたっては、幅広いテーマによる企画展示の開催、歴史博物館や地域での体験も含めた講座の開催、蓄積したデータのインターネット等を通じた積極的な公開などを、親しみやすさに焦点を当てながら実施していきます。

◇活動目標(1) 常設展示の充実

資料の調査、研究によって得られた新たな情報を常設展示によって紹介し、常に新鮮な情報

を発信する。また、利用者のニーズを把握し、展示内容に反映させるとともに、将来の改修に向けた準備を行う。

(具体的事業案)

- ① **ミニ企画展・特別公開などの充実** 大津絵・近江八景など、大津市ならではの歴史と文化の魅力を示す資料を、ミニ企画展において定期的に公開していくとともに、資料調査によって得られた新発見資料のタイムリーな公開につとめる。
- ② **展示解説シートの作成と活用** 常設展示の内容や大津の歴史に関する理解をより深めるための解説シートを作成するとともに、事前学習にも利用できるように、ホームページ等で公開し、利用の促進を図る。また海外からの観光客誘致に向けて、多言語版解説シートを作成する。
- ③ **展示解説の充実** 現在運用中の音声ガイドの内容充実に加え、観覧者の展示内容に対する理解を深める様々な解説方法を模索する。
- ④ **常設展示の見直し** 観覧者アンケート等により、満足度・リピーター率等を把握するほか、意見の集約により、展示内容の充実を図るとともに、今後の展示改装に向けた基礎資料として活用する。

◇活動目標(2) 企画展示の充実

企画展示のテーマとして、国指定などを始めとする一級の文化財の鑑賞機会を提供するとともに、個性あふれる地域の魅力に焦点を当てた企画展、タイムリーなテーマによる企画展を開催し、大津市の歴史と文化の素晴らしさを広く発信する。

(具体的事業案)

- ① **指定文化財の公開** 日頃、目にすることの少ない指定文化財(国・県・市指定)の鑑賞機会を来館者に提供する。
- ② **資料調査の成果を盛り込んだ企画展の開催** 大津市の歴史と文化の特徴として挙げた、個性あふれる地域の魅力等を重視したテーマによる企画展を開催する。
- ③ **企画展示開催方法の検討** 企画展開催にあたっては、展示内容への理解を深めるため、れきはく講座と連動させるなど、多様な試みを模索する。また他の博物館や文化施設等と連携し、幅広い視点で地域の魅力を明らかにする。
- ④ **親しみやすい企画展** 利用者のニーズに応じたテーマでの企画を検討する。また、解説などについても分かりやすさ、親しみやすさを念頭においた工夫と見直しを常に行う。

◇活動目標(3) 子ども・若者に対する学習支援の推進

子ども・若者を、大津市の歴史と文化の魅力を未来へ引き継ぐ担い手として育てていくため、各年代層に応じた、学習に関する支援を積極的に進めていく。

(具体的事業案)

- ① **小中学生来館に対する学習支援** 学校団体観覧をはじめ、来館する児童・生徒に向けた、常設展示解説シート、ワークシートを新たに作成し、歴史と文化の普及を図るとともに、受入れの促進を図る。
- ② **小中学校への出張授業** 主に、小学校3年生の学習分野「昔の道具、昔の暮らしを学ぶ」、

6年生の社会科歴史分野に対応した出張授業を実施するとともに、学校現場での授業支援に向けた副教材を作成する。

- ③ **親子で学ぶ歴史講座の開催** 大津市全体や地域の歴史、また博物館資料や施設及び活動に関する講座を、体験型に力点を置きながら実施する。
- ④ **子ども・若者に対する多様な学習支援** 子ども・若者に対し、館内や地域での資料調査など、学芸員の仕事を体験してもらうとともに、自発的な郷土学習に対する支援を行うことで、文化財の保存や伝承に対する意識の普及を図る。

◇活動目標(4) 幅広い世代に向けた積極的な情報発信

博物館が持っている資料や情報を、れきはく講座やホームページ等を通じて積極的に発信することにより、市民等の生涯学習に対するニーズに応える。

(具体的事業案)

- ① **れきはく講座の開催** 現在、毎週土曜日を基本として開催している、博物館講堂での講座と年4回程度の現地見学会を、今後も継続実施するとともに、参加者のニーズを把握し、講座内容の充実を図る。
- ② **公民館講座等への講師派遣** 地域の公民館、市民の歴史サークル、各種団体などで開催される講座に講師を派遣し、大津市の歴史と文化の普及を図る。
- ③ **れきはくホームページの充実** 博物館の案内や展示の紹介以外に、大津の歴史と文化を示す資料のデータを高精細画像によって提供し、歴史博物館を訪れることなく、自宅でも、より詳細な資料の検索を可能とする。
- ④ **報道機関への情報提供** 企画展、ミニ企画展を始め、調査による新発見資料等を随時記者発表し、博物館活動の内容を幅広く広報する。

基本的運営方針 3

大津市の歴史と文化の普及に携わるさまざまな組織の活動と連携し、支援体制を築き、歴史情報のセンターとしての役割を担う

「大津市総合計画」「教育振興基本計画」に基づき、大津市の歴史と文化の魅力をさらに広く発信するために、学校教育、社会教育の諸活動、都市計画、観光に関わる諸事業、市民ボランティアやまちづくりを目指す大学や各種団体、企業、歴史的に関係の深い文化施設および自治体などと連携し、博物館事業を進めます。そして、大津市の魅力を、人々が共有し、暮らしに活かせるような歴史と文化のあらゆる情報に応えるセンターとしての役割を担います。

◇活動目標(1) 大津市各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携

大津市の各部局および市内大学、各種団体、文化施設等との連携を図りながら、本市の歴史情報発信の核としての役割を果たす。

(具体的事業案)

- ① **大津市教育委員会、市長部局各課との連携** 文化財保護課、生涯学習課、市立図書館、都市計画や観光等の諸計画と連携を図り、本市行政における大津の歴史と文化推進事業

の核としての役割を果たす。

- ② **市内大学、文化施設等との連携** 平成14年度から開催している成安造形大学との連携による「夏休み子どもワークショップ」、同24年から実施している県立びわ湖ホールでのラ・フォル・ジュルネ事業との連携等により、大津の歴史と文化の魅力を、市民等と共有する取り組みを行う。

◇活動目標(2) 歴史と文化情報のセンターとしての役割を担う

歴史博物館で調査収集した資料を幅広く提供するとともに、博物館展示室を広くギャラリーとして活用し、歴史と文化の普及に関するセンターとしての役割を担う。

(具体的事業案)

- ① **他の博物館等展覧会に係る収蔵資料の貸し出し** 他の博物館、各種団体等が開催する展覧会に対し、博物館所蔵資料等の貸し出しを行うことで、本市の歴史と文化普及の核としての役割を果たす。
- ② **博物館資料の幅広い活用** 博物館所蔵資料等を、地域の文化活動や福祉活動、書籍の出版や個人の調査、研究などに幅広く提供し、その活用を推進する。
- ③ **レファレンス対応** 市民や報道機関などから、メール、電話、手紙、来館などによる問い合わせへの対応。
- ④ **企画展示室の活用** 企画展示室を大津市美術展や教育委員会主催事業の会場として提供するほか、広く市民ギャラリーとしても貸し出し、文化的活動への活用を図る。